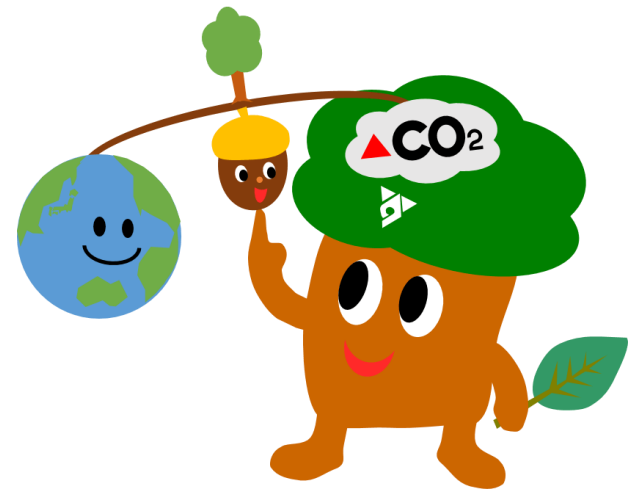


「脱炭素はだの市民会議」について



「脱炭素はだの市民会議」とは・・・

- ◆ 本年度神奈川県施策 「若年者・地域向け脱炭素普及啓発事業」
の一環として実施。 地域が主体となった脱炭素社会づくりを推進。
- ◆ 県施策は2つのプロジェクトで構成
 - ① 脱炭素の推進に向けた地域版ワークショップ
 - i 秦野市 7～11月
 - ii 大磯町 7～2月
 - iii 藤沢市 秋以降を予定
 - ② 高校生向け脱炭素教育プログラム(4校予定)

「脱炭素はだの市民会議」とは・・・

◆ 本年度神奈川県施策 「若年者・地域向け脱炭素普及啓発事業」

の一環として実施。地域が主体となった脱炭素社会づくりを推進。

◆ 県施策は2つのプロジェクトで構成

① 脱炭素の推進に向けた地域版ワークショップ

- | | |
|---------|--------|
| i 秦野市 | 7～11月 |
| ii 大磯町 | 7～2月 |
| iii 藤沢市 | 秋以降を予定 |

気候市民会議
の考え方を
ベースに設計

② 高校生向け脱炭素教育プログラム(4校予定)

「気候市民会議」とは・・・

無作為抽出で社会の縮図を構成するように集まった市民が
数週間から数か月かけて 気候変動対策について話し合う会議
→結果は国や自治体の政策決定に活用（三上直之）

欧州で開催されている「気候市民会議」



マクロン大統領が設置(2019年10月～2020年6月)



国会(下院6委員会)の要請で開催(2020年1月～5月)

⇒欧州各地、自治体へ

日本における「気候市民会議」の動き

2020年度 札幌市
2021年度 川崎市
2022年度 武蔵野市
所沢市
2023年度 つくば市
厚木市★
逗子市・葉山町★
多摩市
日野市
横浜市青葉区★
2024年度 東京都杉並区
茅ヶ崎市★
鎌倉市★ ……



かながわ気候市民会議
in 逗子・葉山



2024年2月

員会



どうして「市民会議」？

気候変動問題に立ち向かうためには、
私たちの暮らしや地域のあり方を脱炭素型に大きく変えていく必要がある

① 市民自身が変化(行動変容)の担い手

CO₂をあまり出さない暮らしに変える必要がある、でも簡単ではない
まちのあり方や、お店・商品・事業者のあり方も変わることが必要

② 社会的意志の表明者

行政や議員だけに任せるのではなく、
どんなふうに変わってほしい？そのためにはどんな施策が必要？
市民も考え、話し合い、提案・意思表示することが大切

「脱炭素はだの市民会議」の背景と目的

- ・秦野市は、2021年「2050年ゼロカーボンシティ」への挑戦を宣言
2022年「秦野市地球温暖化対策実行計画」を施行
- ・2025年に中間評価を実施し、状況把握・課題抽出の上、取組みを本格化

市民会議では、
秦野市における脱炭素社会づくりについて市民目線で議論を行い
その結果を**市民提案として取りまとめる**

秦野市に提出
「地球温暖化対策実行計画」の
中間見直しの参考とされ、
今後の脱炭素政策に生かされる

地域社会にも発信
地域における取組みに
発展していくことを期待

実施体制

主 催：脱炭素はだの実行委員会 ●
秦野市 ●

脱炭素はだの市民会議実行委員会

市民会議の推進に関わる重要事項を協議・決定し、
市民会議を円滑に進行する

石丸 昌義（元秦野市環境審議委員会 委員(市民公募)）
大熊 一寛（東海大学政治経済学部教授）
大塚 彩美（東京大学未来ビジョン研究センター特任助教）
勝田 悟（東海大学大学院人間環境学研究科教授）
高橋 大助（NPO法人秦野にぎわい創造まちづくり 理事長）
吉田 秋恵（湘南生活クラブ生協 理事）

事務局：一般社団法人環境政策話研究所(IDEP) ●

話し合いのサポート役 ●

（ファシリテーター）

全体進行	岩崎 茜
グループのサポート	
稲田 あや	山内 健
稲田 素子	有賀 一広
片岡 博	石井 徹
越地 浩氣	加藤木 ひとみ
小谷 真司	朝尾 直太
小林 綾子	川瀬 裕子
葉石 真澄	高瀬 桃子
平野 理恵	

「脱炭素はだの市民会議」の実施方法

市民会議の主役

無作為抽出による秦野市民で
ミニパブリックスを形成

- ①気候変動問題や脱炭素社会づくりに関する学習
- ②脱炭素社会の実現に向けた取り組みを市民目線で話し合い
- ③「市民提案」としてとりまとめ

話し合いの進行は
ファシリテーター
がサポート

参加市民

5月下旬に参加者募集文書を発送、45名の参加者を確定



秦野市の住民基本台帳から
(16歳以上75歳未満)

約11万2000人



秦野市が無作為で2500名を抽出

2500名



参加呼びかけを発送



383名から回答、うち79名が参加意思表示

79名



年齢・性別・住区等に偏りがないように調整して
秦野市の縮図(ミニパブリックス)を形成

45名

参加市民

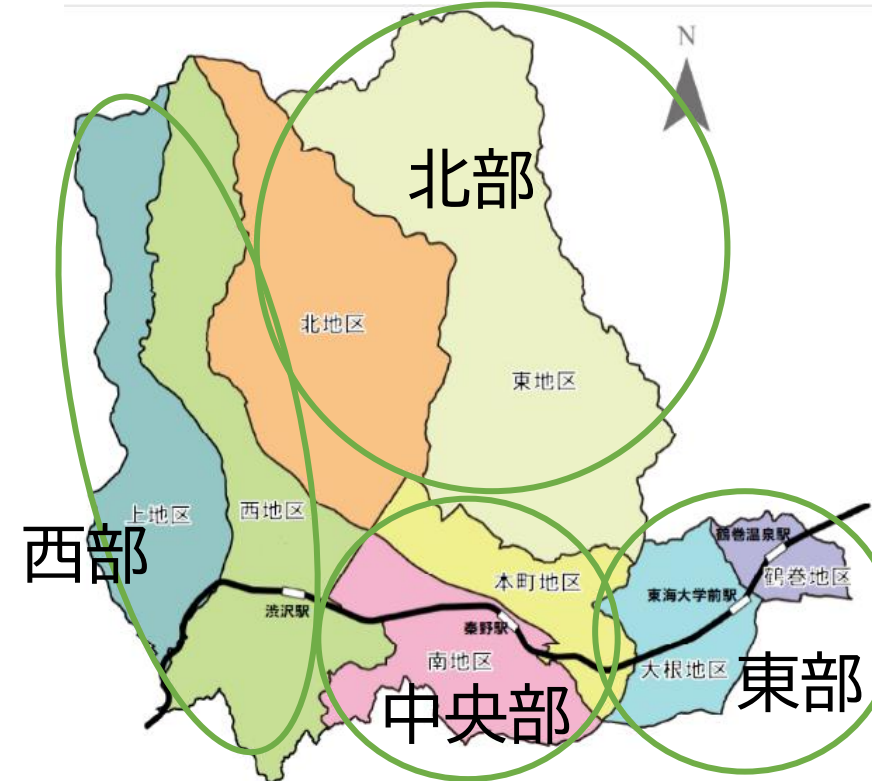
年代、性別のバランス

年齢 構成	参加市民 (45 名)			ミニパブリックス (45 名)			人口統計からみた 割合(%)		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	合計	男女割合(%)	
								男性	女性
70～74 歳	2	2	4	2.2	2.4	4.6	10.3	47.3	52.7
60 歳～	3	3	6	3.9	3.9	7.7	17.2	50.1	49.9
50 歳～	4	4	8	5.1	4.6	9.7	21.6	52.5	47.5
40 歳～	4	4	8	4.3	4.0	8.3	18.4	52.2	47.8
30 歳～	4	4	8	3.1	2.8	5.9	13.2	52.7	47.3
20 歳～	4	3	7	3.4	2.9	6.3	14.1	53.8	46.2
16 歳～	2	2	4	1.2	1.1	2.4	5.3	51.8	48.2
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	23	22	45	23.3	21.7	45.0	100	50.2	49.8

参加市民

4つの地域のバランス

ブロック	参加市民 地域別人数	ミニ パブリックス	人口統計からみた 割合(%)
北部(北地区、東地区)	5	8.1	18.0
東部(大根地区、鶴巻地区)	12	10.4	23.2
中央部(本町地区、南地区)	16	15.3	34.0
西部(上地区、西地区)	12	11.2	24.8
	45	45 人	100%



全4回のながれ:全体像

第1回

「未来のはだの」を描き、気候変動・脱炭素とのつながりを考える

第2回

「脱炭素はだの」実現の課題を検討する

第3回

テーマごとに学習・討議し「脱炭素はだの」実現の方法を考える

第4回

「脱炭素はだの」実現の方法をブラッシュアップし「市民提案」に

フォロー アップ会議

「脱炭素はだの」実現のための取り組みへと発展

「脱炭素はだの市民会議」の成果物 &・・・

市民自らの行動変容のための取組み(市民のアクションプラン)

それを可能にする地域主体(企業、NPO、市民組織等)の取組み

それらを促すための施策案(行政への提案)

「脱炭素はだの」を実現するための
取組みやアイデア(提案)を
かたちにしたいなあ

「脱炭素はだの」のイメージや
提案を、ほかの秦野の人たちに
知らせたいなあ